

均衡ある発展と一体感の醸成を図り 豊かな自然と歴史生かした交流と創造の都市へ

瀬戸内市合併記念式典



元合併協議会委員の21人に感謝状が贈呈されました



式典には500人が参加。後ろ姿は、名刀太鼓の皆さん



神戸市長田区の「ファンタスティックス」の皆さんが、スティールパン演奏



式辞を述べる立岡市長



「瀬戸内市」の名付け親
大賞受賞の秋山明慶君(右)

瀬戸内市合併記念式典が2月13日、邑久町公民館で開催され、約500人が参加して合併を祝いました。

名刀太鼓の皆さんのウエルカム演奏後、映像で瀬戸内市を紹介。

立岡脩二市長が「明日を担う子どもたちが、瀬戸内市に生まれ育ったことを誇りとし、いつまでも愛着を持ち続けられるまちにすることが、わたしたちに課された使命。今後は、市政の均衡ある発展と一体感の醸成を図りつつ、豊かな自然と歴史を生かした交流と創造の都市の構築を目指し新たな歩みを進めたい」と式辞を述べました。

続いて、合併の功労者である立岡市長と東原和郎助役が総務大臣表彰を受賞。元合併協議会委員の21人に立岡市長から感謝状が贈呈されました。

「瀬戸内市」の名付け親大賞を受賞した邑久中学校3年の秋山明慶君が紹介され、「今後どんなまちになってほしいか」の問い掛けに、「みんなが住みやすいまちになってほしい」と答えました。

閉式後、阪神・淡路大震災で甚大な被害に遭った神戸市長田区の市民が活気を取り戻そうと立ち上がった経験が、映像とともに紹介され、ドラム缶を改造して作ったスティールパンを使った音楽で、震災後のまちを元気な演奏が会場を盛り上げました。

ファンタスティックス代表の明石健司さんが自らの経験をもとに語った、「まちづくりは友達づくり。立場を超えた人間関係づくりが、まちづくりの第一歩」は、合併して間もないわたしたちに向けたメッセージでもあります。住んで良かったと実感できる瀬戸内市へ、4万人のスクラムを組んで進みましょう。

1月21日、議会の同意を得て、次の二人が助役に選任されました。

考えはグローバルに、行動はローカルに

市助役 東原和郎

このたび、新生「瀬戸内市」の助役に選任され、大きな責任を感じるとともに、市政を通じて新しい地域づくりに携われることを、幸せに思います。

た訳ではありません。地方分権時代にあつて、適切かつ合理的な地方自治体構築のスタートラインに立ち、行財政改革の第一歩を歩み出したばかりです。

すめ、安心・安全な明るい瀬戸内市づくりに市民の皆さま方と一緒に頑張りたいと思っております。

「考えはグローバルに、行動はローカルに」を念頭に、職員にも意識改革を求めつつ、これからの難局に

62歳・牛窓町牛窓
平成9年12月から16年10月まで牛窓町長、平成16年11月から12月まで瀬戸内市長職務執行者を務めた。

真正面から取り組みますので、どうぞ市民各位のご協力をお願い申し上げます。



自立した自治体へ全力を尽くす

市助役 増本好孝

このたび、スタートしたばかりの瀬戸内市で、助役として新しいまちづくりに携わる機会が与えられたことは、大変光栄なことだと思っております。

けるよう、瀬戸内市の市民であることを誇りに思っていただけのように、そんな市にしていくため市長のサポートに全力を尽くしてまいります。

地方分権が進んでくると、住民に最も身近な自治体と重責ではありますが、郷土

50歳・長船町長船
昭和54年4月から平成17年1月まで県職員。県民生活課企画調整主幹、政策審議監付参事など歴任。

のために全力で取り組んでまいりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

合併して良かったと市民の皆さまに実感していただ